

洋書輸入協会会報

VOL. 21
NO. 11

(通巻247号) 昭和62年11月

理事会報告

9月25日(金)

(一) 顧問就任

再度顧問に推された相良廣明氏から応諾の返事があつた旨報告された。

(二) ロゴ

企画渉外委員会とダイレクトリイ委員会の合同会議で細部について検討することとなった。

(三) 規約の印刷

ロゴの制定を待たずに印刷をすすめることとなった。

(四) 洋書まつり

本年の洋書まつりは10月16日、17日の両日催されるが、洋書まつりのあり方、について話しあわれた。ただし結論には達しなかった。

(五) その他

10月14日(火)

(一) 九月分収支計算・予算対比表

10月9日に開催された総務委員会における討論にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 入会

太陽図書貿易株式会社(豊島区目白5-18-5、代表者 小松守雄、電話 953-7071)の入会を承認した。

(三) 退会

ニューベリハウス パブリッシャーズ インタナショナル インコーポレイテッド(代表者藤本静夫)の9月30日付け退会を承認した。

(四) 藍沢ビルの明渡し

9月30日付けで家主の相武住宅株式会社から「建物貸借契約解除の件」という文書による申入れがあつたことが報告された。藍沢ビルは1933年10月建築、老朽化に伴い明年10月から建替え工事にはいたいので、明年3月31日までに明渡ししてほしいという内容である。討論の結果、とりあえず①他のテナントの意見をきき、さらに②次回理事会で同社の社長から説明をきくこととした。

(五) 諸規定の制定

諸規定(弔慰金・見舞金、会費、選挙管理委員会、事務局)について総務委員会で検討することとなった。これは規約改正に伴うとともに、従来の規定を成文化するためである。

(六) ロゴ

ロゴについての企画渉外・ダイレクトリイ両委員会の合同会議は10月23日開催されることが報告された。

(七) その他

理事会報告.....	1	新入会員のおしらせ.....	2	Book Review No.119	5
第19回洋書まつり.....	2	総代理店ご案内.....	2	広 告.....	6
書籍展示会のおしらせ.....	2	洋書輸入協会史(25).....	3		

第19回洋書まつり

恒例の洋書まつりが10月16日・17日の両日、神田駿河台下東京古書会館にて開催されました。

初日、台風の影響で朝から雨模様、それでも篠つく雨の中来場のお客様は途絶えることなく、相変わずのにぎわいでありました。2日間の売上は379万円と、天候に恵まれなかったにもかかわらず昨年の359万円を上回り、史上3位という好成績をおさめました。

今回初日に日本テレビより取材があり、会場の模様・内容など好意的なニュースを午後のニュースの時間に40秒間流してくれました。洋書輸入協会の名がマスコミに出るのはあまり面白くない場面のときばかりでしたから、今回のことは画期的なことといえるでしょう。

19社が参加されたこの催し、来年も成功させたいものです。

みなさまありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。

(SN)

書籍展示会のお知らせ

ロンドン国際書籍展示会

1988年3月28日—30日

London International Book Fair, Olympia 2.

INFO '88 Exhibit

1988年10月17日—22日

International Congress of Scientific and Technical
Information, International Conference Center,
Havana, Cuba

新入会員のお知らせ

このたび下記のかたが入会されましたのでお知らせします。

正会員

太陽図書貿易株式会社 代表者 小松守雄

〒171 東京都豊島区目白5-18-5

☎ (03) 953-7071

総代理店ご案内

ユサコ (株)

☎ (03) 502-6471

THE NEW YORK ACADEMY OF SCIENCES (USA)

Annals of the New York Academy of Science



洋書輸入協会史 (25)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

25.6 昭和25年9月の経済安定本部に対する陳情書

民間貿易再開により外貨割当を受けた頃から、入荷がぼつぼつと始まった昭和25年の6月頃にかけて、実務上の諸問題が累積し、7月7日の懇談会でその不満が噴出している。

その第一は外貨割当額が決定的に不足していることであり、次には事前承認制その他のため諸手続きが煩雑でしかも時間がかかることである。

理事会としてはこれらの対策を検討した上、これら諸問題の解決には経済安定本部（注1）に相談するのがよろしかろうと、そこの担当官と打ち合わせを行った。その結果現状の欠点、戦前の状況、かくあるべき輸入形態などに関する意見を取りまとめ、文書として提出することとなり、文案を練った上で9月6日に提出している。

その要点は、先ず「外国書籍、定期刊行物・雑誌輸入上の諸欠陥について」と題し、冒頭に「現在の外国書籍雑誌輸入上の最大の欠陥と目されるものは次の諸点であります。

1. 受注から発注までに要する期間が極めて長いこと
2. 手続が非常に複雑、煩雑であること
3. 為替の枠が実需よりはるかに少ないこと」

と三項を挙げ、以下に各項毎に説明を加えている。即ち第一項については、現在は需要者の注文をまとめて外貨割当承認申請してから承認になるまで平均40日、更に輸入申請その他の手続きを終えて発注するまで2ヵ月、これに需要者から受注した分を取りまとめて申請するまでの期間を加えると、受注から発注まで平均3ないし4ヵ月を要するので、今次大戦による研究の遅れを取り戻すための緊急需要に重大な支障を来していると述べている。

第二項については、書籍・雑誌の輸入にはSCAP（注2）、CIEとの特別の関係があるため、それ相当の複雑性は理解出来るが、それにしても我が政府の内部処理でもっと簡易化出来ないかという、

第三項については、外貨申請額が、割当枠を遙に突破しているのを見るだけで、割当額が不足しているのが分り、また割当額の不足が諸事を遅らせる原因になっていると指摘している。

以上を述べた上で、各項についての具体策を列举し、更に標準外決済を標準決済に準ずるものとしての取り扱いに改めて頂きたいこと、担保金を輸入許可額の全額払込完了の場合、戻してくれるようお願いしたい旨をつけ加えている。

この陳情書は、1月、5月のものに比較して、民貿の経験を積んだために極めて具体化しており、官庁側の施策に役立ったものと思われる。

（注1）経済安定本部。略して安本（あんぽん）とも呼ばれた。現在の経済企画庁の前身。1946（S21）8月に、第2次大戦後の経済危機を乗り切るためには各省庁業務を強力かつ一元的に指導する機関が必要として設置された。’47（S22）には2,000人の大官庁となったが、’49（S24）以降縮小の過程をたどり、’55（S30）に経済企画庁に改編された。

（注2）SCAP。第二次大戦後の日本で、連合国最高司令官（Supreme Commander for the Allied Powers）の略称。その総司令部がGHQ（General Headquarters）である。

25.7 外国郵便物に対する通関料の件

前項で取り上げた昭和25年7月7日の懇談会においては、その他にも外国普通郵便物に対してまで通関手数料48円を取られることがあったという不満が出ている。これに対しては関係官庁と打ち合わせの上、同年8月8日付海輸第93号で会員宛下記のような通知が出された。

記

外国郵便物に対する通関手数料の件

7月7日懇談会のみぎり、各位より御申出のあった外国普通郵便物に対し一個又は一通につき48円の通関手数料徴集の件は、中央郵便局外国郵便課（注）へ照会の結果、小包並びに小型包装郵便物についてのみ徴集に決し、普通郵便物には通関手数料を課さない事に決定した由ですから左様御了承下さい。

（注）当時は未だ大手町の東京国際郵便局は無く、外国郵便物はすべて中央郵便局で処理されていた。

今日から考えればまさかと思われるようなことが、当時は実際に起っている。これも民間貿易復活時の初期の混乱の副産物であろう。

26 フランス使節団経由のフランス書輸入のその後、及び Centre du Livre 設置のこと

昭和24年にフランス使節団経由でフランス書の輸入が始まったことは、洋書輸入協会史(4)(会報 Vol.20 No.11、昭和61年11月号の第17章所載)において述べたが、その後の状況を略述してみよう。

26.1 民貿開始後のフランス使節団経由輸入とフランス書の代価

昭和25年2月13日、同業会の理事一同はフランス使節団へ赴き、民間貿易再開が近い現状において今後の問題を話し合った。その結果「民間貿易が施行されても現在のままの輸入方法を当分の間継続する」ことが決定された(昭和25年2月13日付、海輸72号)。

その折フランス書の代価も、1 F・Fr 1円34銭の換算に、ディスカウント率によって10%、20%、25%を積み、それぞれ1円50銭、1円60銭、1円65銭に値下げすることとなった。これは従来フランス使節団が受け取っていた5%のコミッションなどを廃止したことによる値下げである。

次に10月7日付海輸第99号では、次のように会員に知らせている。

記

フランス換算率変更の件

今般フランス使節団において取り扱う仏書代金に対し、換算率を左記の通り変更する旨通知がありましたからお知らせ致します。

1フラン……1円111(旧1.34)

即ち ¥100=90fr (旧 ¥100=75fr)

右は本年3月注文分(注)から適用される由。尚注文受付の節支払う前払金は、1フラン当り75銭(即ち1フラン 1円換算の4分の3)を支払うことになり、差当り8、9月発注依頼をこのレートで至急支払うよう依頼がありました。(後略)

同業会側ではこの通知に基づき、従来のフランス書の代価をディスカウント率によって1円20銭、1円30銭、1円40銭、1円50銭の4本立てに値下げしたい旨を10月12日にフランス使節団へ申し入れ、10月24日にその承認

を取っている。

(注)10月28日付の海輸第101号により、新レートの適用は本年3月分からではなく8月以降に変更された旨通知が出ている。

26.2 フランス定期刊行物の取り扱い開始

昭和25年4月15日付海輸第76号では、「フランス使節団においては定期刊行物の取扱いを準備中の処、大体5月初旬から予約の引受けを開始の予定にて、目録、代価、割引率など本国からの通知を待って詳細発表する旨」を会員に通知している。

6月9日には、同業会各理事とフランス書を扱う紀伊國屋書店、緑書房、明治書房、白水社などがフランス使節団に呼ばれ、いよいよフランス雑誌の輸入取扱いが開始される旨の話があり、目録も13日に出来上るとのことであった。

26.3 Centre du Livre の設置

昭和25年12月に入って、フランス使節団から書籍輸入のため特別機関の設置を準備中の旨知らせがあったが、やがて12月分の注文から“Centre du Livre”(中央区日本橋本町1-7)において従来通りの方法で取扱う旨の通知があり、12月15日にフランス使節団においてその事務引き継ぎ、及び新責任者の紹介があった。

なお雑誌については、本国の取扱者が異なるため、宛名を今後Centreでなく“Syndicat National des Exportateurs de Publications Periodique Francais”とするよう、12月26日に通知が出ている。

昭和26年に入って1月25日には、サントルにおいてフランス書輸入業者の懇談会があり、近くChazel氏が帰国するため、希望があれば本国に取り次ぐとのことで、

- (1) 輸入のスピードアップ、Post Supplyの実現。
- (2) 換算率を民貿並みに引き下げよう要望(注。現行の¥100=90frは、本国大蔵省の決定事項につき、変更不可能と思うが努力してみる由)。
- (3) 雑誌の予約注文は、Direct Supplyを実施して貰いたい。
- (4) 本国MLFのコミッション12%を引き下げて貰えないか。

などの希望が出され、サントル自身の手数料も問題に

なった。これらの手数料の問題については、1月30日付の海輸第115号で、同業会から次のような説明が会員に出されている。

記

Centre du Livre 経由仏書輸入について

French Mission 監督のもとに昨年12月から Centre du Livre が開設されましたが、これは従来の Mission 扱いと異なり民間団体ですから、其の経費は手数料として加算されることになりますので、従来の C. I. F. 価格の外に

5 % が加算されることになりました。またこの点については各位の経費を節減するために、将来は出来るだけ M.L.F. 経由を止めて直接輸入をはかる等、Centre du Livre において御研究下さる由。

なお前払金については、当分の間現在通り注文が許可された時 1 fr=¥0.75 の割で払い込むこととなりますから左様御承知下さい。(以上)

この説明により、サントルは民間団体であることがはっきりした次第である。(続く)

Book Review No.119

小林高四郎『古本随筆・漁書のすさび』

A5 版 228 pp. 写真 10 pp. 1986 西田書店 ¥1,800

元史、蒙古史の専門家として大きな業績をあげた著者(元横濱国大教授)の古書についての随筆集である。自ら「書痴」と呼んでいる著者のエッセイの範囲は、著者の博学多識を反映して、まことに広く、古書は古今和漢洋にわたり、収集地は東西各地に及ぶ。

めずらしい企画で序文がなく、その代りに巻頭には「蒐集談・まえがきにかえて」と題して、古書通信社の八木福次郎氏を司会者とし、同じく好書家・愛書家として知られる徳永康元氏(言語学者、東京外大名譽教授、『世界の図書館』(1981、丸善)の編者)との対談がおかれている。古書店への提案を含めた広いテーマにわたる座談であるが、古書を集めるには、やはり勉強をし、いろいろな部門に関心をもち、それに足と暇をかけなければならないと語られている。しごくもったいなことだと思うが、凡人にはそれがなかなかできないのだろう。

第一部にあたるのは「古本探訪」で、1930年代中ばの「蒙古で古文書をさがす」、1981年の「北京―上海の古書店巡り」それに「ヨーロッパ古本漁り」の三章にわかれている。カードを見るだけでは本はわからず、書庫にはいることが収集の必要条件であることが強調されている。ここでは我々にお馴染みの古書店の名前もでてくる。第二部は「漁書雑筆」で、著者の掘出し物、本漁りの話である。個々の本についてふれる余裕はないが、大久保幸次といういまは忘れられようとし

ている回教研究の先駆者であり、日本における「トルコ語開祖」を紹介したり(p.114)、同様に「殆んど忘れられているであろう」「不遇な老英学者」高橋五郎に筆をさいている(p.194以下)ところに著者の暖い人柄を感じる。

第三部は「古本は語る」で、著者が手にいれた珍しい古書の内容の紹介である。東西古今にわたるひとつひとつがきわめて面白い。かの悪名高い鳥居耀蔵は丸亀藩お預りとなって28年間をすごして、明治維新後静岡に孤影悄然と現れたが、それでも己の信念をすてず意志強固に生きていたという話がでてくる(角田音吉『水野越前守』明治28年)。「幕末横浜に留清人について」は、大垣藩の家老だった小原鉄心の『亦(えき)奇録』の内容紹介である。慶応二年(1866)に横浜にはおよそ五百人の清国人が在住していたという。そのうちの有識者数名を料亭に招待したが、すべて広東人だったという。そのとき詩の応酬がすんで筆談に移るとすぐに、日本側からは当時関心の強かった太平天国についての質問がでている。その返答はこういう席だけに、きわめて外交的にみえる。

難解な理論をといた本ではないし、古書という具体的なものを通しての随筆集で、本の面白さ、貴重さについて教えられるところが多いし、読んでいて楽しくなる本でもある。御一読をおすすめしたい。(M. I.)



AMERICAN PHYSIOLOGICAL SOCIETY

アメリカ生理学会学術誌

アメリカ生理学会は、約 100 年の歴史を誇る世界的に権威ある学会であります。

生理学の研究の進歩、発展の中で常に研究業績の最先端を追求し、数多くの由緒ある学術雑誌を発行しております。これらの雑誌も 100 年の節目を迎え新しい飛躍が期待されます。

American Journal of Physiology-Consolidated

月刊	¥174,900
----	----------

*AJP-Heart and Circulatory Physiology

月刊	¥49,500
----	---------

*AJP-Renal, Fluid and Electrolyte Physiology

月刊	¥42,900
----	---------

*AJP-Endocrinology and Metabolism

月刊	¥35,200
----	---------

*AJP-Gastrointestinal and Liver Physiology

月刊	¥36,300
----	---------

*AJP-Cell Physiology

月刊	¥33,000
----	---------

*AJP-Regulatory, Integrative and Comparative Physiology

月刊	¥39,500
----	---------

Journal of Applied Physiology

月刊	¥86,900
----	---------

Physiological Reviews

季刊	¥36,300
----	---------

Journal of Neurophysiology

月刊	¥64,900
----	---------

The Physiologist

隔月刊	¥7,700
-----	--------

*印は航空貨物（エアカーゴ）で送られます。

■1988年「円」価格は、版元の都合で変更されることがありますので、予めご了承下さい。

■お問い合わせは直接本社「マーケティング部」までお願いいたします。■カタログご請求下さい。

〈日本総代理店〉

ユサコ株式会社

-USACO-

本社 〒105 東京都港区新橋1丁目13番12号 堤ビル ☎(03)502-6473

営業所：大阪・名古屋・筑波

昭和62年11月 通巻第247号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル612号室

☎271-6901 FAX 271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル

☎371-5329